

令和7年度 自己評価表（年度当初）

鳥取県立倉吉西高等学校

教育目標	校訓である「立志」の精神に基づき、自らの志（使命感）を明確に持ち、将来、地域貢献及び社会貢献のできる心豊かな人材を育成する。	今年度の重点目標	1 人間性や社会性の向上 2 チャレンジグループ活動の充実による自己探究型キャリア教育の推進 3 学びの深化と主体的学びの構築 4 情報発信の更なる充実 5 働き方改革の推進
中長期目標	1 道徳教育の充実 2 キャリア教育の充実 3 高い志の実現に向けた、学ぶ意欲の向上		

評価基準 A:十分達成〔100%〕 B:概ね達成〔80%程度〕 C:変化の兆し〔60%程度〕 D:まだ不十分〔40%程度〕 E:目標・方策の見直し〔30%以下〕

年 度 当 初					評 価 結 果（ 月）		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
人間性や社会性の向上	○個人や集団の間に存在している様々な「違い」の理解度を深める。 ○「人との関わり」や「出会い」を大切にしていくことで、豊かな心を育成し、主体性を培う。	○人権 LHR や講演会を通じて人権意識が高まり、人権意識のもと、一人一人を大切にする教育が行われていると思う生徒が、92.1% になっている。 ○生徒会活動に積極的に参加し、主体的に活動できる生徒は昨年度 78..8%であり、教員からの働きかけが引き続き必要な状態にある。	○お互いの価値を認め、共に生きる力を身につけることができている。学校評価アンケート（生徒）の「生徒一人ひとりを大切にする教育が行われている」の項目が前年度を上回る。 ○自らの成長につながる生徒会活動やボランティア活動の参加者が多く、学校評価アンケート（生徒）の積極的活動参加者の割合が 80 パーセントを超えている。 ○学校生活全般で他者を思いやり、協力する姿勢が身についている。	○人権講演会の実施、日々の授業における教科を渡った人権意識の定着。 ○生徒会活動を通して、他者と共に試行錯誤しながら自他ともに大切にすることを学ぶ。また、挨拶運動を行い、挨拶を通じた関係作りを進める。			
チャレンジグループ活動の再構築とキャリア教育の充実	○「地域を支える、貢献に資する人材を育成する」高校として、地元自治体や地元大学等と連携し、I C T を活用した地域課題の分析・解決を体験する「ふるさとキャリア教育」を推進する。 ○地域との連携を深め、I C T ツールを活用しながら、地域課題の発見・解決に主体的かつ実践的に取り組む活動を通して、生徒の自己実現を支援するとともに、地域社会に対する貢献意識を高める。	○S1で「鳥取県立美術館」を通して倉吉市役所、鳥取中部観光推進機構、美術館パートナーズの方々の協力いただき、地元大学等教員から講演会も実施できた。また、S2でも三朝町連携により校外活動機会が広がり、着実に地域理解・課題解決への取組が整いつつある。 ○地域課題への解決策を具体的に提言するまでの過程で現地調査やインタビューなど地域理解に至る活動が十分ではない。 ○念願の外部コンテストの応募ができ、2班がファイナリストに選出された。また、校外の取り組みに累計15名の生徒が参加し、地域に貢献する意識が高まっている。 ○3年間を見通した進路学習計画に沿って進路学習を進めることで、生徒の主体的に進路を切り開こうとする姿勢が向上しつつある。	○地元自治体や地元大学との連携を図りながら探究活動が日常的に実施されている。 ○個々の生徒が地域課題と向き合い計画性をもって、校外でのイベントやシンポジウムに積極的に参加している。（前年度を上回っている。） ○積極的にI C T ツールを利用しながら探究活動を行っている。 ○進路学習と探究活動が有機的に結びつくことで、キャリア形成における視野や選択肢が広がり、将来の学びや自己実現について主体的に取り組む生徒が増加している。	○3年間を見通した探究活動計画に沿って地元自治体や地元大学の協力を仰ぎながら、講演会や施設・企業訪問等の機会をとらえ、生徒が地域や社会について理解を深め、視野を広げる活動を推進する。 ○チャレンジグループ活動を通して現地調査やインタビューなど地域と関わる機会を増やすとともに、地域のイベント等への参加を促すなど、地域に根差した活動の支援を行う。 ○I C T ツールを活用して地域課題のデータなどを積極的に整理・分析し、課題解決の方向性を考えさせる。 ○進路学習と探究活動が効果的に連動するように、講演会や大学・企業訪問などを計画的に実施する。			
学びの深化と主体的学びの構築	○図書館やオンライン資料を効果的に活用し、探究型学習による課題解決能力を育成する。 ○I C T 環境をさらに整備し、これらを活用した学習の高度化と生徒の主体的な学びを促進する。	○貸出冊数は2年間で徐々に増加している傾向がみられる。しかし、授業利用時間は減少しており、授業や探究学習において図書室を活用した学び合いの機会が少ない。学ぶ集団として協同的・課題解決的な取り組みが十分でない。 ○模試の振り返りや情報収集等にI C T 活用が進み、生徒の主体的な学びへの意識が向上しつつある。昨年度は91.7%の生徒が「授業はわかりやすく充実している」と回答している。 ○各教科で公開授業を実施し、I C T を活用した授業の技術を教科間で共有することができた。 ○学習情報の収集や校外模試の活用にI C T を効果的に用いることで、生徒の主体的な学びへの意識が向上しつつある。	○学びの深化や探究を深める趣旨での図書館利用が進んでいる。（書籍に貸し出しが前年度を上回っている。） ○学校評価アンケート（生徒）で「本校の授業はわかりやすく充実していると感じる」という回答が前年度を上回っている。 ○授業や探究活動で Chromebook をはじめとした I C T 機器の効果的な利用が進み、個別の課題に主体的に取り組む生徒が増えている。 ○I C T ルームの整備とともにI C T 学習サービスを効果的に活用することで、学びの過程や成果を振り返りつつ個別最適化された学びが実践されている。	○朝読書の実施計画を作成・実施することで、図書室を利用した読書活動を増やす。 ○探究的な学習を中心に、協同的・協動的に取り組む環境を整え、学び合う機会を増やす。 ○今年も各教科が校内研究授業を行い、活用方法の共有や研修を深める。 ○デジタルポートフォリオを活用して成長や課題を可視化しつつ、AI 教材やオンライン学習環境を効果的に活用することで、一人ひとりに応じた学習を推進し、クラッシーやマナビジョンのポートフォリオ機能等を活用することで、生徒自身の学びの自走につなげる。			
情報発信の更なる充実	○ホームページやInstagram等を活用し、生徒の活動の様子を積極的に発信する。	○ホームページやInstagram等を通じた情報発信が十分ではない。 ○P T A 広報誌の作成は、保護者と連携し工夫している。	○ホームページが月間 10 件以上更新され、閲覧者の数が前年度よりもアップしている。 ○学校外や地域に向けてのイベント参加を含めた情報発信の機会を増やし、生徒の輝いている姿が見える状況になっている。	○ホームページやInstagram、広報紙等の役割、特徴を整理し、役割に応じた情報発信に努める。 ○ホームページの更新は事前に担当を割り振り、担当者を明確にしておく。 ホームページ担当をあらかじめ割り振ることで、進路学習の様子を継続的に記録し、迅速に情報を発信できる体制を整える。			
働き方改革の推進	○教職員の心身の健康を保つための環境整備を行い、実現に向けた改革を推進する。 ○I C T を活用して業務の削減を図る。	○業務改善に対する意識改革は進んでいる。仕事の区切りをつけて早く帰る姿は増えてきている。 ○グループの再編を試みているが、教員の絶対数が減っており、全体の業務見直し(業務の削減)が急務である。 ○ポータルサイトの活用によって、連絡事項のホワイトボードへの転記業務などは改善されている。	○「働きがい」を意識した優先順位を考えた業務の仕分けを行い、物理的な業務量が減っている。(月 30 時間以上の時間外業務従事者が年間で前年度比-10 パーセント)になっている。 ○I C T を活用し、教材の作成や共用について業務の効率化が進んでいる ○職場全体にチームで業務を果たすという意識が高まり、相談できる体制が整い、結果前年度よりも職員がゆとりを感じる状況が創られている。	○教職員から、現状の業務について何が削減できるのかを、物理的な許容範囲がどこなのかを踏まえて議論する場を設ける。 ○I C T に振り回されるのではなく、いかに業務の中に取り入れ、業務削減につなげることができるのかを具体的に実践していく。 ○終業時刻から1時間以内に教務室、事務室から誰もいなくなる日を設ける。(かえらー d a y の実体化) ○チャットG P T などの機能を、業務支援として活用することができる。			